

南通遺跡 第31地点

遺跡名	南通遺跡
よみがな	みなみどおりいせき
調査地点	第31地点
主な時代	弥生時代後半～古墳時代初頭（約2,000年前）、昭和20年
調査地	針ヶ谷2丁目33-2、3
調査面積	997.4㎡のうち、約190㎡
調査期間	令和6年1月18日～令和6年2月21日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 弥生時代後半～古墳時代初頭の竪穴住居跡3軒、第二次世界大戦時の爆弾痕跡</p> <p>【出土した主な遺物】 弥生時代の土器、第二次世界大戦時の爆弾破片</p> <p>【概要】 当遺跡は、針ヶ谷地区の武蔵野台地上に位置し、弥生時代後半～古墳時代初頭の大規模集落をはじめ、縄文時代～近世の遺構や遺物が確認されています。</p> <p>今回の調査地点は遺跡東部に位置し、弥生時代中期後半～古墳時代初頭の竪穴住居跡3軒と第二次大戦時の爆弾痕跡1か所を調査しました。竪穴住居跡は、後世の攪乱により残存状況は良くありませんでしたが、うち1軒は、確認できた範囲（全体の6割程度）で長軸6m以上、短軸4m以上の大型住居跡と判明しました。</p> <p>爆弾痕跡は、昭和20年4月2日、米軍機2機が針ヶ谷地区に投下した10発以上の爆弾のうちの1発です。爆弾は直径20m以上、深さ2m以上もの大穴を開け、その周辺の地面にも多くの歪みや亀裂を与えていました。竪穴住居跡にも床面の陥没や無数の亀裂が入るなど、爆弾の威力がよくわかる調査となりました。</p>



大型住居跡（第318号住居跡）



爆弾の影響で住居跡の床に段差ができている



爆弾の影響で地面に亀裂が入る



出土した爆弾破片